

ノリの陸上養殖に挑戦～海的环境変化に左右されず安定したノリの生産を目指して～

スサビノリは、日本の食文化を支える代表的な海藻の一つです。これまで主に海で育てられてきましたが、近年は気候変動による海水温の上昇や海洋環境の変化、汚染などの影響で、安定した生産が難しくなっています。

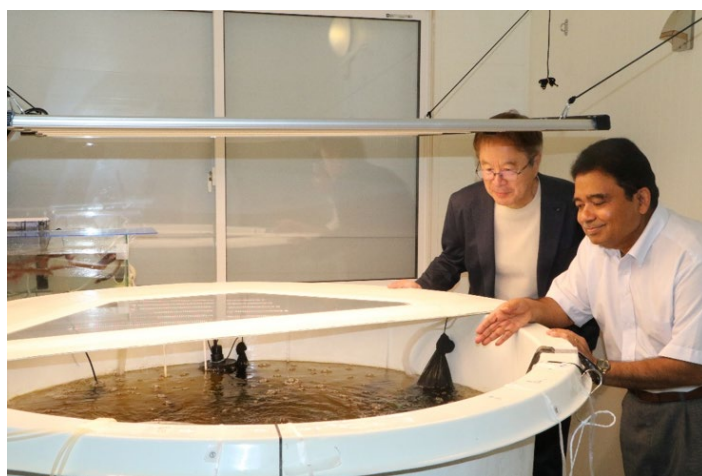
そこで九州大学カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所の SAHA Bidyut Baran 教授、株式会社大新代表取締役の中村智氏および研究者 4 名、九州大学訪問研究員、株式会社大新主任責任者の ISLAM Md. Amirul 博士らの研究グループは、海に頼らず、一年を通して安定した環境で育てることができる陸上栽培に挑戦しています。

今年（2026 年）の冬、本研究グループは、自然光と独自に開発した活性海水と栄養液を用いて、陸上でのスサビノリ栽培に成功しました。さらに、生育速度は従来の海での養殖より 25～30% 速いという成果が得られ、陸上栽培の大きな可能性が示されました。

この成果をもとに、現在は夏でも栽培できる屋内型の培養システムを開発しています（図 1 を参照）。太陽の光を再現する LED 照明、水温を最適な 16℃ に保つ温度管理、自動で栄養を補給する仕組み、そして水質を常に見守るシステムを組み合わせることで、季節や天候に左右されない、安定した栽培環境を実現します。

本研究グループは、この研究が海的环境変化に左右されにくい持続可能なノリ生産につながると期待しています。そして、この新しい栽培システムによって、スサビノリの一年中の陸上栽培を実現し、未来のノリ養殖の新しい形を切り拓いていきたいと考えています。

研究者からひとこと：本研究を通して、気候変動の影響を受けにくい新しいノリ生産技術の実現を目指しています。この技術が持続可能な水産業の発展に貢献し、安定したノリ生産につながることを期待しています。（九州大学 SAHA 教授）



（図 1）自動化された 1 トン級光バイオリアクターを用いた「スサビノリ」のスマート屋内栽培。

（左から）株式会社大新 中村代表取締役、九州大学 SAHA 教授、ISLAM 博士

【お問い合わせ】九州大学カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所（WPI-I²CNER）

〔担当〕I²CNER・Q-PIT 共通事務支援室 学術支援・渉外グループ

〔拠点ウェブサイト〕<https://i2cner.kyushu-u.ac.jp/ja/>